

次期総合計画につきましては、これまで培ってきた「海と空の港」を中心とした社会基盤や地域資源を活かした取り組みと、市民福祉の向上の両立を図っていくというまちづくりの機軸は、今後も変わることのないものとして認識しており、「環日本海オアシス都市」の発展イメージも、基本的に継承していきたいと考えております。

また、短期間にめまぐるしく変化する近年の社会経済状況の中であって、長期的な視野に立った計画づくりが困難であることから、計画期間は概ね5年間とし、構成も、これまでの行政の全分野を網羅する計画ではなく、より重点的に取り組むべき施策に絞った、新しいスタイルの計画にしていこうと考えています。内容的には、私の掲げている公約を基本に、周辺自治体等との連携強化による一体的な発展全国ブランドである「さかな」と「鬼太郎」を活かした経済振興、一人ひとりを大切にした教育と福祉の充実、安心で住みよい生活基盤の充実、などを柱に施策を体系づけていくことを考えており、今後、総合計画審議会や市議会、パブリックコメントなどで幅広くご意見をいただきたいと考えっております。

経済の活性化と都市基盤整備

環日本海交流の推進

日本・韓国・ロシアを結ぶ環日本海定期貨客船は、就航以来、半年以上が経過しますが、境港・東海間における旅客数は、韓国からの観光客を中心に堅調に推移しております。

本年は、東海市をはじめ韓国企業との経済交流や、日韓の青少年交流、さらにはロシアを含めたスポーツ交流など、様々な交流が予定されており、航路を活用して北東アジアとの交流の拡大を図ってまいります。

貨物の状況は、依然として厳しい状況が続いておりますが、スケジュール通りの運航が続いていることから航路の信用度も高まり、徐々に貨物量が増えてきております。

今後も、既存コンテナ航路の利用促進とあわせて、定期貨客船航路の情報発信やポートセールス、商談会の開催、さらにはロシア貿易のサポートなど、民間と行政が一体となって貿易支援体制を充実させることにより、貨物の一層の確保に取り組んでまいります。

米子・ソウル便につきまして

は、昨年は新型インフルエンザや景気低迷の影響から、前年より利用者数は減ったものの、団体旅行への助成や格安旅行商品の造成、韓国テレビを活用した旅行商品の販売などにより、1月以降の搭乗率が向上していることから、4月以降も現状どおり週3便の運行継続が決まったところであります。

山陰唯一の国際定期路線を今後も維持するために、日韓相互の利用に加え、韓国を経由した香港、バンコク、シンガポールからの誘客促進に向けた旅行商品の造成など、鳥取、島根両県をはじめ関係機関とともに、さらなる需要の開拓・拡大に取り組んでまいります。



外国語標記の案内看板のお披露目をする中海市長会のウンパくん

中海圏域の連携

北東アジアとの地理的近接性を活かすことは、山陰地方のみならず中国地方の発展の鍵であり、日本海側の核となるのが、「海と空の道」を有するこの中海圏域であります。

中海市長会では、2月18日、中海市長会シンポジウムを開催し、策定中である、圏域の今後の指針となる「中海圏域振興ビジョン」と、具体的な事業計画を掲げる「定住自立圏共生ビジョン」の原案を説明したところであります。

特に、振興ビジョンでは、圏域のめざすべき姿として「北東アジアに面した日本のゲートウェイとなるまち」など3つの姿が示されるとともに、共生ビジョンでは、環日本海定期貨客船の運航支援や広域観光の振興などが盛り込まれ、まさに本市が求め、取り組んでいる重点目標が、中海圏域全体で共有する発展方向として大きく位置づけられたものと感じております。

今後、これらのビジョンは、パブリックコメントなどを踏まえて最終的にとりまとめることとなりますが、ビジョンに示した方向性の実現に向け、これまでに以上に連携を深め、圏域の一体感の醸成に努めてまいります。

観光振興

水木しげるロードの平成21年の入込み客数は、157万人余りで、前年より9%減少はしましたが、夏の長雨や、新型インフルエンザ、経済不況などの影響がある中で、大きな入込みだったと考えます。

今月29日からは、NHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」の放映が始まります。これを追い風に、過去最高だった一昨年の172万人を超える賑わいを期待したいと思えます。

番組にちなんだ取り組みとしては、「水木しげる夫妻のブロンズ像の設置」や、水木しげる記念館での「ゲゲゲの女房特別展」などのほか、鳥取・島根両県や安来市をはじめ、中海圏域全体でNHKとタイアップした様々なピリアル事業に取り組み、誘客を図ってまいります。



水木しげる夫妻のブロンズ像除幕式